

結婚おめでとう!!



前号で、入籍をお知らせをした大谷巧君ですが、その結婚式と披露宴に先日参加させていただきました。やっぱり結婚式というのは幸せがあふれていて良いものですね。

新婦へのサプライズで、新婦友人からのおめでとうメッセージ収録のために、大谷君自らが東は千葉県、西は広島県と駆け回ったそうです。もちろん奥さんに内緒で。

仕事でも思っていたのですが、何か大事なことのために労力を惜しまないのは性分なんだと思いました。



年も明けたことですし、いろんな意味で気持ちも新たにがんばりましょう。



編集後記

あけましておめでとうございます。息子が5歳で七五三を迎え、「なんか大っきくなったな～」と感慨深く思っている岡です。

縁あってお会いできた皆様との繋がりを、今年も大切にしていきたいと思います。「銚日誌」をお読みいただいたご意見、ご感想など、お聞かせいただくとうれしいです。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。📍

銚日誌について

銚日誌は弊社製品をご購入いただいた皆様に、ご購入後一年半の間、無料でお送りしているものです。

一年半を越えて継続をお求めの方には引き続き無料にてお送りいたしておりますが継続の申込をお願いしております。

恐れ入りますが電話 0774-62-9566（月曜から金曜の朝9時から17時まで）にご連絡いただけますようお願い申し上げます。

なお、銚日誌のバックナンバーは株式会社P.O.ラボまでご連絡くださいればお送りいたします。

かすがい

銚日誌

2013年
新春号

株式会社 P.O. ラボ

〒610-0342

京都府京田辺市松井山川 1-7

電話 0774-62-9566

FAX 0774-62-9667

e-mail: info@po-labo.com

http://www.po-labo.com

料金後納
郵便

お申し込み

2013年新年明けましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

お陰様で昨年は念願の WCV 試乗会を開催することも出来、有意義な1年となりました。

本年もさらなる飛躍の年にしたいと思っておりますのでご期待下さい。さて、今月号は

【お知らせ】 WCV 試乗会報告

【特集】 リウマチについて（第2回）

【知っ得コラム】

【社員ののぞき穴】

【編集後記】 でお送りします。



【 お知らせ 】

去る平成24年10月11日木曜と11月18日日曜に WCV の試乗会を開催しました！

やはり認知度も低くなかなか人も集められなかったもので、参加して頂いた方は少なかったのですが試乗して頂いた皆さんは大変喜んで下さいました。特にホームセンタームサシ開催では約150m×50mの駐車場を好きなように走って頂けたので WCV の魅力を存分に堪能頂けたようです。これからも、続けていきたいと思いますのでお気軽にお声がけ下さい。📍



【 特 集 】

前回は、関節リウマチとはどんな病気ということと、診断についてお話ししました。今回は、治療とその進歩についてお話ししようと思います。

関節リウマチの治療

治療には、手術療法、リハビリテーション、薬物療法があります。手術療法は変形の矯正や機能の再建を目的に行われます。手術の種類には滑膜切除術（増殖した滑膜を取り除きます）、関節形成術（変形した関節を矯正し、機能回復を目指します。）、人工関節置換術（傷んだ関節を人工のものと入れ替えます。）などがあります。

リハビリテーションは、痛みや腫れを和らげたり、筋力維持と筋力アップ、変形の予防と矯正などを目的に、発症早期から推奨されています。現在では、薬の進歩により、薬物療法が治療の中心となります。薬は一般的な抗炎症薬と、抗リウマチ薬、生物学的製剤に分けることができます。

1. 抗炎症薬 非ステロイド性抗炎症薬
 副腎皮質ステロイド薬
2. 抗リウマチ薬 免疫調整薬
 免疫抑制薬
3. 生物学的製剤（炎症性サイトカイン阻害薬）

とまあ、難しい名前が並ぶわけですが、先に述べた、「薬の進歩」の中心が、3番目の生物学的製剤です。この薬のおかげで、症状の全くない「寛解」という状態に持つて行くことも多くで可能になっています。

薬物療法の変遷

関節リウマチの治療薬は、この半世紀で多く変わってきました。最初の変化はステロイドを関節リウマチ患者さんに使用したことでしょう。1950年にステロイド薬の著しい効果が報告されました。因みにその報告をした Hench さん達はノーベル賞を受賞しています。しかしその後、重篤な副作用が問題となり、ステロイドは使うべきではないという考えが

主流になります。実際にはその考えは誤りがあり、使用量と期間を限れば、副作用の危険は極めて低いということが証明されるまで20年かかります。

1970年代は、ステロイドに変わって、非ステロイド系抗炎症薬というのが治療の中心となりました。よく聞くのが、ロキソニンとかボルタレンとかですね。しかし、炎症は抑えても、進行を阻止したり、関節破壊を抑制することはできないので、安静にしていれば、楽というくらいでした。社会生活をおくる手助けにはならなかったわけです。

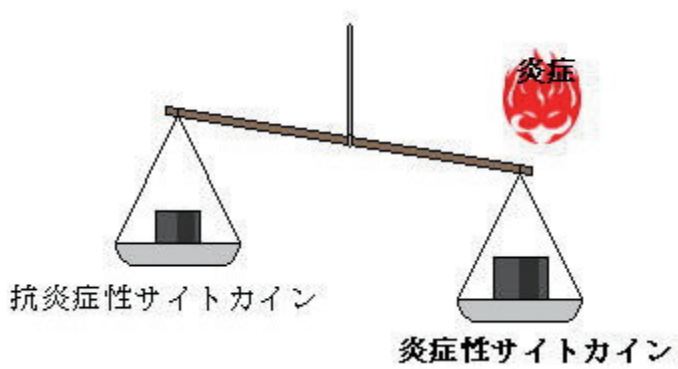
その後、1980年代にはメトトレキサートに代表される、免疫を抑制する抗リウマチ薬が主流になってきます。自分の免疫が自分の体を攻撃してしまうのだから、免疫の活動自体を抑えてしまえというものです。これにより関節破壊の抑制が可能になり、他の治療法と合わせることで、日常生活を維持することができるようになってきました。

そして2003年から生物学的製剤が使われるようになり、治療効果はさらにあがり、健康な人と同じ生活を送ることも可能になってきています。

というように、新たな薬が次々登場し、治療効果も良くなってきています。現在治療の中心となっている生物学的製剤はどんなものか、そして抱える問題点についてちょっと触れてみようと思います。

生物学的製剤について

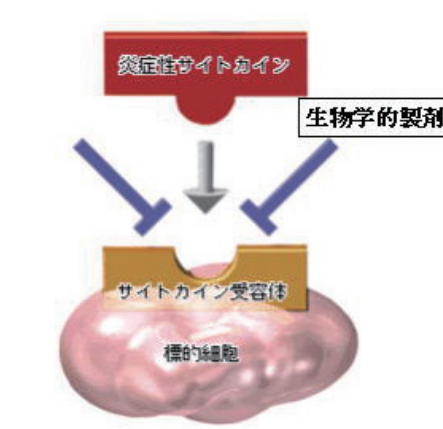
免疫システムには命令の伝達物質としてサイトカインというのがあります。これには炎症性サイトカインと抗炎症性サイトカイン、つまり炎症を促進するものと、炎症を抑制するものがあり、通常は両者



のバランスがとれた状態にあります。しかし関節リウマチでは、このバランスが崩れ、炎症を促進する炎症性サイトカインが勢力を拡大し、「オラオラー炎症起こせー、滑膜を増殖させろー、軟骨を壊せー」という命令が伝達されることで、関節リウマチが進行していきます。そこで炎症性サイトカインのみを抑制するために、遺伝子工学技術を駆使して作られたのが、炎症性サイトカイン阻害薬とも呼ばれる、生物学的製剤です。現在国内で保険適応のある生物学的製剤は、

インフリキシマブ（レミケード）
アダリブマブ（ヒュミラ）
ゴリムマブ（シンボニー）
エタネルセプト（エンブレル）
トシリズマブ（アクテムラ）
アバタセプト（オレンシア）

の6レンジャーになります。（() は商品名）



生物学的製剤の使用により、治療効果は格段に上がっています。

その反面、継続治療を行うに当たって、生物学的製剤の費用は高額です。同じ関節リウマチ

でも医療費の支払い能力の有無によって、治療の継続が困難になるといった、医療格差が懸念されます。また、どの薬が効くかは個人差があり、どの薬を、どれくらいの量、どれくらいの期間投与するのか、そして、副作用についても配慮しなければならないので、習熟した専門医に治療していただく必要があります。しかし、都会には専門医がたくさんいるけど、地方に行くとその数は少なくなるといった、専門医の地域による偏りといった問題もあります。

ここから先は話が大きくなりそうなので、この辺で終わらせていただきますが、難病抱える方ほど、こういった問題がついて回るということを、理解し

ていただけると幸いです。

お薬中心の関節リウマチ治療でも、装具がお役に立つことはあるものです。今回は関節リウマチで処方される装具について紹介したいと思います。🔗

【 知っ得コラム 】

「リウマチ」の語源

みなさんは、リウマチというと、関節の変形する「関節リウマチ」を思い浮かべるのではないのでしょうか？実は、本来「リウマチ」はもっと広い意味で使われる言葉なのです。

その語源は「rheuma (ῥευμα)」というギリシア語で、「流れ」を意味します。体に悪い粘液が脳から体の中を流れていって、いろんな部位に痛みを引き起こすという考えだったようです。ここから、全身の関節や、関節周囲の骨、筋肉などが痛み、それらの機能に障害が起こる病気のすべては、全部まとめて「リウマチ性疾患」と呼ぶようになったようです。

社員ののぞき穴

みなさん、こんにちは。すっかりこのコーナーを私物化している大谷です。無事結婚式を終え、新婚生活を楽しんでいます。今日はそんな新婚生活で起きた一場面のことです。

先日、奥さんの実家で食事をしていたところ、お義母さんから「巧さんは、魚の食べ方がきれいねえ」とお褒めの言葉。ご家族の食べ方が汚いわけではありませんが、確かにボクの食べカスは半分くらいの量でしょうか、少ない。それもそのはず、すべては大谷家の教育。幼い頃、母に「あなたが大きくなってお嫁さんの実家に挨拶へ行くとき、必ず魚の食べ方の試験があるよ。きれいに食べないと結婚できないのよ。」と。それを高校生まで信じていた私は、好きな人ができるたびに、将来のそんな光景（ご両親の前で正座して魚を食べる儀式）を思い描いていたのです。笑 そんなおかげで、お義母さんにも「そんなにおいしかったかな。」と喜ばれ、関係は円満！今から考えれば、ささいな嘘だったんだと思いますが、なんの違和感もなく身につけられたことには感謝です。バカ正直な自分にはそんな教育ができるのでしょうか。親になるのも大変そうです。🔗